

燦々

SANSAN
光り輝く

FUKASAKU FAR



初の道外視察研修で学びを深める。(青年部追分支部)

特集

青年部追分支部 初の道外視察研修 ～道外の先進地で学び、仲間と深めた3日間～

JAとまこまい広域広報誌
燦々光り輝く
No.277



編集・発行

〒059-1603
JAとまこまい広域本所
TEL 0145-272241

北海道勇払郡厚真町錦町10番地2
FAX 0145-273941

令和8年2月10日
ホームページアドレス <http://www.ja-tomakomai.co.jp>
メールアドレス info@ja-tomakomai.co.jp

印刷 株式会社須田製版

THE JAPAN AGRICULTURAL NEWS
日本農業新聞 電子版

電子版紹介動画



日農電子版

新聞よりお得!

月額料金 2,403円 (税込)

電子版でできること

- いつでも、どこでも**
スマホやタブレットを使い、好きな時間と場所で、情報収集ができます。
- 過去記事検索が30日分**
見逃した記事もさかのぼって読むことができます。検索で欲しい情報を効率的に集められます。
- クリップ機能で記事を保存**
気になる記事を最大200件まで保存できます。「まとめ読み」にも役立ちます。
- netアグリ市況がスマホでも見やすく**
青果(野菜・果実)、花、畜産などの全国主要市場での取引結果を即日公開します。



紙面ビューアーの特長

- 読みやすさ、そのまま**
いつもの紙面と同じレイアウトです。
- 文字を大きく**
紙面を拡大・縮小すれば、お好みの大きさに文字サイズを調整できます。
- 紙面丸ごと印刷できる**
すべての面が印刷可能。大事な記事の保存やスクラップに役立ちます。



すべての地方版が紙面ビューアーで読めます

新聞では1地域分

電子版なら全9地域
地方版が読み放題。



購読できる地方版

- 初回のみ、購読開始月は月末までの料金がかかりません(無料期間中の解約はできません)。
- 電子版は個人向けサービスです。法人プランはございません。なお、法人代表者が個人でお申し込みいただくことは可能です。

電子版のお問い合わせやお申し込みは、お近くのJAまでご相談ください。

▼活発な質疑応答



青年部追分支部 初の道外視察研修 ～道外の先進地で学び、仲間と深めた3日間～

冬の足音が近づく12月1日。肌寒い朝の空の中、青年部追分支部は初めてとなる道外視察研修を実施し、計9名の部員が参加した。これまで道内を中心に積み重ねてきた研修活動を新たな段階へと進め、より広い視点で農業の未来を考える機会とするために企画されたものである。普段とは異なる環境に身を置き、各地域で活躍する農業者の取り組みを学ぶことで、多くの刺激と学びを得られることが期待された。

1日目の視察先は、茨城県鉾田市の「深作農園」。

6代にわたり農業を営み、長年にわたって地域農業を支え続けてきた歴史ある農園である。代々受け継がれてきた栽培技術と経験を礎に、時代の変化や消費者ニーズを的確に捉えた経営を実践してきた点が高く評価されている。こうした取り組みの積み重ねにより、「農林水産祭内閣総理大臣賞」や「日本農業大賞」をはじめとする、農業界でも権威ある賞を多数受賞し、全国的にも高い知名度を誇っている。

さらに近年では、生産性や収益性のみならず、働く人や地域、消費者との関係性を大切にしている経営姿勢が評価され、「日本でいちばん大切にしたい会社」大賞（審査委員会特別賞）を受賞するなど、農業分野における先進的な経営モデルとしても注目を集めている。

交流・意見交換会では、代表の深作氏より、栽培から販売までを一貫して行う6次産業化の取り組みや加工品開発、観光農園としての工夫、経営に対する考え方などについてお話を伺った。あわせて、同農園自慢の「紅はるか」を使用した焼き芋と、メロンの産地ならではのメロン紅茶が振る舞われ、和やかな雰囲気の中で意見交換が行われた。部員からは、「会

社として事業を拡大していくために、どのような点を意識して経営してきたのか」「規模を大きくする中で大切にしている考え方は何か」など、経営に踏み込んだ質問も多く寄せられた。それに対し、深作氏は自身の経験を交えながら、理念の共有や人材育成の重要性について丁寧に語り、部員一同、実践的な学びを得る機会となった。

意見交換会終了後は、敷地内にある直売所やバームクレーン専門店を見学し、各自お土産を選ぶ姿も見られた。終始和やかな雰囲気の中、視察の余韻を楽しみながら農園を後にした。

夜は水戸市内にて懇親会を実施。道外ならではの食文化を楽しみながら、初日から部員同士の親睦もより深まった。

2日目は千葉県のJA山武郡市を訪問。まず初めに同JA職員および青年部員との意見交換会が行われ、地域農業の現状、部会活動の組織体制、販路確保の工夫、人材育成の取り組みなど、幅広いテーマについて情報共有が行われた。同世代の青年部員との交流では、互いに抱える課題や悩み、経営に対する考え方などを率直に語り合い、共感の声や新しい視点が多く生まれた。「地域が違っても、青年部として目指す方向に通じる部分がある」との感想も多く、交流の意義を強く感じる時間となった。

意見交換会の後は、同地域の主力品目であるネギの圃場を視察。丁寧に管理された広大な圃場を前に、部員からは感嘆の声が上がった。現地担当者より、栽培技術、病害虫対策、収穫から調整作業までの工程、出荷体制など実践的な説明を受け、参加者は積極的に質問を投げかけていた。特に気候条件や土壌特性の違いが生産方法に影響を与える点は非常に興味深く、部員からは「地域ごとの強みや工夫を



▲意見交換の様子



▲作物と向き合う様子



▲圃場視察の様子



▲お土産選びのひととき

知ること、自分の作付けにも応用できるヒントを得られた」との前向きな声がかれた。視察後は千葉市内にて懇親会を開催。初日から続く学びの興奮も相まって、部員同士で意見を交わしながら、互いの経験を共有し合う有意義な時間となった。

今回、青年部追分支部にとって初となる道外視察研修は、多くの方々のご協力により、学び・交流・体験が詰まった3日間となった。視察先で出会った方々の言葉、実際の現場で見た光景、そして仲間との会話は、部員一人ひとりの今後の営農や青年部活動に大きな刺激を与えた。部員からは「視野が大きく広がった」「地域外の取り組みを知ることが、自分たちの活動の可能性を再確認できた」など、研修の成果を感じさせる声が多く寄せられた。

本研修で得た経験を今後の活動に活かし、青年部としてさらなる盛り上げを図ってきたい。

燦々

SANSAN
光り輝く

No.277 CONTENTS

- 01 特集 青年部追分支部 初の道外視察研修
～道外の先進地で学び、仲間と深めた3日間～
- 03 カメラレポート
- 07 令和7年度
冬期組合員懇談会 主要意見集約(Q&A)
- 09 理事会報告
- 10 期待の農力 大塚毅彦さん
- 11 ワンポイント営農情報
- 12 あぐり講座
- 13 JAからのお知らせ
- 14 令和6年産 一般米共計勘定収支内訳
令和6年産 一般米精米勘定収支内訳
令和6年産 大豆 共計精算報告

裏表紙 日本農業新聞 電子版



青年部追分支部は12月上旬、支部として初となる道外視察研修を実施した。9名の盟友が参加し、関東方面を訪問。6次産業化や他JAの取り組みを視察したほか、盟友同士の交流を深めた。

地域の問題を
パチリと

広域

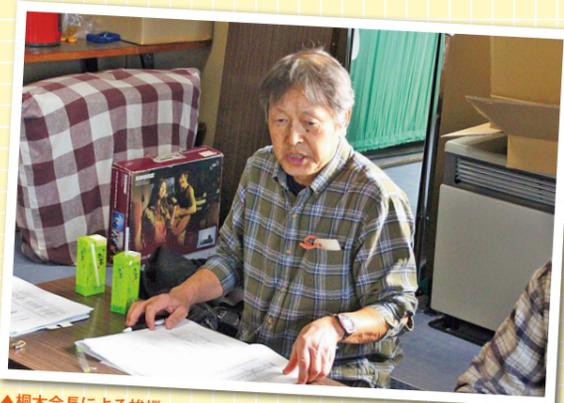
反省会を開催

J Aとまこまい広域もぎたて市部会

J Aとまこまい広域もぎたて市部会は11月28日、厚真町の本所にて反省会を開催した。管内の各支所より会員ら13名が一堂に会して今年度の活動を振り返った。開催に先立ち桐木政三会長が「販売実績を確認し、1年間の部会活動を振り返りましょう」と挨拶した。普段交流機会の少ない会員同士の自己紹介から始まった反省会は、J A事務局より令和7年度の販売計画と経過実績を報告。2月から11月までの販売実績は35,402千円、前年対比は89.5%となった。11月の産直市ではキャベツや葉物類が好調



▲反省会の様子



▲桐木会長による挨拶

な販売率であったのに対し、需要より数量が大きく上回った椎茸やさつまいもが苦戦したことを説明。また、次年度の生産計画について事務局より、キャベツ「ひめみつ」やいんげん「サクサク王子」など、苫小牧市内のホクレンショップやAコープあつま店などの販売先で需要の多い品種を例に挙げ、作付けの参考として示した。

反省会後、同町のレストラン「食空間ゆるり」にて懇親会を開催。老若男女問わず自身の生産する作物などの話に花を咲かせた。現在、同部会の会員は35名。高齢化が進む中で商品バリエーションの増加や販売力強化へ向け会員らの意識を高める反省会となった。

広域

新規参入者らが経営を学ぶ

第1回フロンティア塾

J Aとまこまい広域は12月18日、厚真町の本所会議室にて第1回フロンティア塾を開いた。管内の新規就農者や同町の担い手育成センター研修農場生ら9名が参加した。

講師を中小企業診断士の羽賀修平氏が務め、「経営実践研修①」として確定申告における損益計算書の作成方法や減価償却の考え方、農業における事業計画について理解を深めた。

農業者が関わることとなる事業計画として例に挙げたのは、認定農業者制度の農業経営改善計画や青年等就農計画、クミカンの営農計画、各資金の融資計画など。補助金や融資を受けるためというだけでなく、リスクの見える化、成長戦略の具体化といった様々な目的を達成するために必要となる。参加者らは、経営基盤が十分に確立されていない新規参入者にとって数年先を見据えた事業計画を立てることが、非常に重要になると学んだ。

第2回では実際に事業計画の立て方を学ぶ講習を予定している。同塾は計4回、羽賀氏による経営実践研修は残り2回で完結する。



▲損益計算書の解説をする羽賀氏



▲講義を受ける様子

広域

国政から土壌まで、
基調講演で理解を深める

第18回農業総合研修会

胆振管内J Aとまこまい広域は12月22日、本所のある厚真町総合福祉センターにて第18回農業総合研修会を開催した。管内6支所より組合員ら約120名が参加、国政事情や管内土壌の特徴など各種基調講演に耳を傾けた。

堀弘幸組合長の挨拶で開かれた同研修会には、7月の参議院議員選挙で初当選した東野秀樹氏が駆けつけ、選挙の支援に対する感謝と当選後の農政活動の報告、今後の意気込みを語った。冒頭、昨年3月にJ Aグループの推薦候補者となったから、自民党に対する逆風の中で全国各地を巡り、農業者やJ A関係者から厚い支援を賜ったことに感謝の辞を述べた。

11月には参議院農林水産委員の理事に就任し、地域農業の声を政策に反映していくよう取り組む旨を伝えた。その他各農業関連会議に積極的に出席し、業界外の人に対する農業への理解醸成、現場の事情に寄り添った政策実現へ向けた発信を続けていくと意気込みを語った。

政治関連では、株式会社時事通信社より解説委員の山田恵資氏が「高市政権誕生は政界再編の始まりか」2026年の日本政治展望」と題し、国政に関して解説。総裁選から首相指名、今後の展開に至るまで業界の裏話を交えながら展望を述べた。解散の有無やタイミングに関して、内閣支持率や政党支持率の推移を示した

がら考察を説明。ある程度の政策を実現し成果を上げたのちの解散と高い支持率を得ているうちの解散。発足当時こそ後者の可能性がさやかれたものの、残りの総裁任期や衆議院任期、長期政権を見据える過程を示したうえでその可能性が薄いと示した。

帯広畜産大学の谷昌幸教授は、同J A管内の土壌特性と今後の改善に向けた講演を行った。管内では樽前山噴火による火山噴出物を含む土壌が広がる。化学的に保肥力が低いといった特徴を持つが、施肥や土壌改良のコントロールがしやすい。また、肥料が肥料分を保持する能力が低い。土壌が肥料分を吸収しやすい。また、肥料流亡が早い。追肥による細かい調整が可能となる。物理的な特徴として易耕性、通気性が良好なため根はりに比較的問題はなく、過度な心土破碎や耕起を減らせる可能性を伝え

た。一方で、一部の地域で土中に固い層があるため、緑肥作物により下層まで根が侵入できる環境づくりが必要と説いた。

研修会終盤には、J A北海道札幌支所より平野茂貴支所長がJ Aグループの農政活動について説明。東野氏が当選した参院選時の農政活動の報告のほか、同グループの重点事業としての農政事業の推進体制を示した。また、同J Aの営農部営農課より技術指導担当者が管内の優良事例発表を実施。秋まき小麦や水稲における生育調査や土壌診断を通じた収量増へ向けた取組内容と生育ステージごとのポイントを説明した。谷教授の講演も含め土壌に関して理解を深めた生産者より様々な質問があがった。

閉会にあたり石橋公昭専務が挨拶を行い、挨拶後には来場者より大きな拍手が送られ同会は幕を閉じた。



▲東野秀樹議員



▲山田恵資解説委員



▲谷昌幸教授



▲質問をする生産者



▲平野茂貴支所長による農政運動報告

白老 苦小牧

ソーセージ作り研修

JAとまこまい広域女性部 苦小牧支部・白老支部 合同開催

12月17日(水)と19日(金)の両日、苦小牧市榎前交流センターにて、JAとまこまい広域女性部苦小牧支部・白老支部合同によるソーセージ作り体験研修が開催された。この事業は苦小牧市農業担い手対策推進協議会の研修の一環として女性部苦小牧支部が毎年開催している。今回は昨年11月に開催された広域女性部事業「女性の集い」での交流により、白老支部員からソーセージ作りに取り組んでみたいとの希望から合同による開催に至った。両支部通じて16名の参加があり、部員同士の交流を深めた。



▲腸詰め作業を行う様子

えて漬け込む作業、腸詰め後整形しホイールする一連の工程を2日間に渡って作業する。温度管理が重要であり、低温で行うのが恒例となっている。寒い中で作業かつ慣れない作業に戸惑いながらも苦小牧支部野村副支部長を中心とした指示・指導の下、各部員持前の器用さと丁寧さで見事なソーセージができた。白老支部員からは「ジュシーで味も濃厚でおいしい、色んな料理に使ってみたい」「新鮮な体験で楽しかった。機会があればまた参加したい」との声があった。女性部員の人数が少なくなってきた中、今後の活動の幅を広げる支部同士の交流活動になった。



▲作業を教わる部員

厚真

小学生がみそ工場を見学

JAとまこまい広域女性部厚真支部

JAとまこまい広域女性部厚真支部は11月28日、厚真町の同JAみそ加工施設にて厚真中央小学校3年生を受け入れ、児童らは厚真町産の原料を用いた特産品「おふくろみそ」の製造方法や歴史を学んだ。

でを、原料である同町産の米や大豆を見せながら説明。「どうして寒い時期に作り始めるのか」との質問に、「今年収穫した米や大豆を使用するので、収穫が終わるこの時期になる」と佐藤部長より回答、質問した児童は納得した様子でメモをとっていた。また、施設内の機械や発酵室、保管庫などを見学。各製造段階の設備や機械を見て、どの工程を行うものかクイズ形式で学んだ。



▲どの工程を行う設備か考察する様子

見学後、「どうしてみそづくりを始めたのか」という問いに対し佐藤部長は、「厚真のものを使ってなにか作れるものはないかと考えたのがきっかけ」と回答。立ち上げ当初も今も地場産にこだわる思いを伝えた。同学習は、厚真町ふるさと教育の一環として、町の魅力を発信する学習を継続的に行うことで、地域への理解を深め外部へ伝える力を養い、地元へ貢献できる人材を育成することを目的に行われる。

厚真

「町長との町政懇談会」

青年部厚真支部

1月14日、JAとまこまい広域青年部厚真支部(藤本貴則支部長)は、厚真町長との町政懇談会をかねなか中島食堂で開催した。農協青年部と町長との町政懇談会は、農業の担い手である青年部から意見要望を提出することにより、将来に向けてよりよい農業に取り組めるように町政へ反映されることを目的に毎年開催されている。当日は厚真町より3名、青年部厚真支部より盟友15名が参加し、町政について意見交換が行われた。



▲懇談会で町長の話聞く部員たち



▲食事を交えた懇談会の様子

青年部員からの要望質問内容は有害鳥獣対策や補助金、青年部と町の協力体制について等が挙がり、町職員からの回答を部員たちは熱心に聞いていた。懇談会後は食事を交えた懇親会が行われ、和気あいあいとした雰囲気の中で町長と話す部員たちの様子がうかがえた。参加した青年部員からは「町長に直接意見を伝えられる機会は貴重で、今回の懇談会が厚真町の農業の未来に繋がれば嬉しい」と話した。

穂別

家族に素敵な思い出をプレゼント

青年部クリスマス・スポーツ交流会を実施

JAとまこまい広域青年部穂別支部(中澤誠弥支部長)は12月14日、2回目となるクリスマス・スポーツ交流会を開催した。

を収めた。昼食会は、令和7年にオープンしたまちなか交流拠点施設「ホコスタ」にて開催された。中澤支部長は「家族の方へ日頃の感謝の気持ちを込めて、部員が丸となって料理を作ったので、談笑しながらたくさん食べて交流会を楽しみましょう」と挨拶した。ピュッフエ形式で食事が提供され、ビーフシチューやポテトチップス、唐揚げ等、計8品がテーブルに並んだ。

当日は盟友やその家族の合わせて37人が参加し、会場を大いに賑わせた。この企画は、青年部家族間の交流を深め、普段から家事・子育て・青年部事業への理解に感謝する機会を設け、独身者にはこの機会に子供との交流や調理スキルを身につけることで、婚活に活かしてもらうことが目的である。

参加した子供たちは「クレープが美味しかった」「ピュッコが面白かった」「お父さんと過ごせる時間ができて良かった」と満面の笑みで話していた。



▲調理を行う部員たち



▲接戦の玉転がし



▲大好評の昼食会

令和7年度 冬期組合員懇談会 主要意見集約(Q&A)

開催日:令和7年12月11日・12日

企画管理部

- Q1.** J Aではこれから期待が持てる年代の離職者が多く見受けられるが、原因は把握されているのか。仕事は本人のやりがいや責任を感じられるものであるのか。また、農産物の集荷受入れにスマート農業を導入することで人員の削減も見込まれるのではないかと(厚真支所)
- A1.** 離職者の件ですが、職員の人員不足のほか、休暇が取れないなどの労働環境や職員個人の家庭の問題など様々な要因があることは把握しています。今一度課題を洗い出し、中途採用職員や外国人労働者の雇用を進めており、給与改定も必要と考えております。集荷受入れについては、効率化が図れるものであれば導入に向け検討してまいります。
- Q2.** 手数料を上げることは仕方ないと思うが、米価もどのように変動するかわからない中で際限なく上げるのか。今後の方向性をお聞きしたい。また、生産施設再編の進捗状況はどのようになっているのか。(厚真支所)
- A2.** 手数料の見直しにつきましては、物価高騰に伴う農協運営費(人件費等)を考慮し、中長期的な視点での改定とさせて頂きました。生産施設再編については、春から施設担当者の意見や生産部会長を含めた施設再編検討委員会を設置したなかで、組合員の期待に応えられるよう慎重に協議を進めたいと考えております。

金融共済部

- Q3.** 金融共済店の隔日営業について、そうなるのも昼休憩は店を閉めるのか。員外利用者を捌ききれず大変なことになるのではないかと(白老支所)
- A3.** 金融業務の効率化と収益確保に向け隔日営業を検討しておりますが、昼休憩につきましても働き方改革の一環として必要な対応と考えておりますのでご理解をお願いいたします。
- Q4.** ローンなどの融資の対応について例えば週一回、曜日を固定して受付窓口を設けるたか二週間に一度支所で対応するということができないか。(白老支所)
- A4.** 翌日の朝に搬入する方法もありますのでご検討願います。
- Q15.** 早来の施設廃止はどうしてか?新しい施設ができたから早来の生産者は米、麦、大豆全て厚真まで持つていかなければいけないのか?(早来支所)
- A15.** 早来施設の施工業者が撤退しており、メンテナンスに支障をきたしていることや、老朽化しているため厚真に集約する再編協議を進めております。搬入先が遠くなりますが不公平感がない様な形にしたいと考えております。
- Q16.** 早来のそ菜関係の施設はどのようになるのか?何年に施設を集約するのか?(早来支所)
- A16.** そ菜関係ですが、機能や人の配置についての集約はまだ具体的に決まっておりますが、集約については検討している段階です。生産施設再編については、令和8年に施設規模と金額を確定させ、9年度の国の予算には乗せたいと思っております。
- Q17.** 施設再編について、完成までの期間は既存の設備で対応するのは可能なのか。受入時期も前倒し可能か。(追分支所)
- A17.** 追分大豆については、現状通り厚真での施設調製となります。麦の受け入れ体制の件ですが、今年度は収穫時期が早まり、受入対応がやや遅れてしまいご不便をおかけ致しました。次年度においては、麦の生育を判断しながら自主検査委員さんと圃場巡回を実施し、それに合わせた施設対応を図ってまいります。
- Q18.** 施設再編計画80億円となっているが、厚真町安平町・むかわ町はどういう反応なのか。早来の施設がなくなるので、組合員の抵抗はないのか。施設が完成すると利用料が上がると商系に流れる可能性はあるのではないかと(追分支所)
- A18.** 現在、たまたまとして80億円としておりますが、再編整備内容は協議中で具体的な事業費が算出できていない現状のなか、行政へ正式な要請はしておりませんが、再編整備を進める方向性のお話はお伝えしている状況です。施設の集約で搬入に対して距離が遠くなり労力、費用的な問題がありますが不公平感が生じないように取組みを提案していきたいと考えております。施設の完成で、老朽化した施設の整備費や修理費が削減されることを踏まえ、最終的な利用料がどこまでご理解いただけるかがポイントになると考えております。
- Q19.** 施設利用料を高くすると、何年後には共倒れするのではないかと(商系対策は考えているのか。追分支所)
- A19.** 組合員が減少し、担い手の規模が拡大するなかで、乾燥調製保管を担う施設は、利用者にとって今後ますます重要なものと考えます。個人では生産物の調製管理にも限界あり、共同施設を利用することでメリットが生まれ、そこに農協の役割があると考えます。商系に対しては負けない努力や工夫を努めてまいりたいと存じます。施設再編にあたっては、共同運営のご理解のほど宜しくお願い申し上げます。

営農部

- Q5.** サービスの向上や改善したことは発信して欲しい。いい情報をフレンションしてもらえれば我々も前向きに考えられる。(白老支所)
- A5.** キャンペーン情報や、サービス向上(ネットバンク、QR伝票作成ツールなど、広報等)を通じてご案内してまいります。
- Q6.** 振込手数料がネットバンクの方が安いと、クミカンから直接ネットバンクに振込できるようにできないか?(早来支所)
- A6.** 現在インターネットバンクによる振込可能な貯金種類は普通貯金のみとなっております。信連等へクミカンへの利用拡充の要望をあげてまいります。
- Q7.** J Aネットバンクを活用できるようにしたいが、誰に聞けばいいの。説明会などを検討してほしい。(追分支所)
- A7.** 金融窓口職員によるご登録のお手伝いをいたしますので、お気軽にお声かけ下さい。また、ネットバンク登録活用説明会も今後検討してまいります。
- Q8.** 農業振興基金の小規模土地改良事業について、施工費用が高くなっているため、助成額を上げて欲しい。(早来支所)
- A8.** 農業振興基金については令和9年度にメニューの一新を計画しており、令和8年夏までにメニューの素案作成を進めて参ります。農業振興基金はJ Aの事業年度末における剰余金の中から組合員還元を目的とした積み立てを行っておりますが、限りある財源から組合員が目指す農業振興に最大限活かされる様な使途をゼロベースで考えて参ります。一旦令和8年度は本年同様の助成体系となりますことをご承知願います。
- Q9.** 有害鳥獣による被害が絶えず、エンジンカ以外にもアライクマやネズミ被害も増加している。特にアライクマが増えていることで何か対策があれば教えてほしい。(厚真支所)
- A9.** 現在J Aにおける有害鳥獣対策に関しては被害の最も著しいエンジンカ捕獲対策に財源を一点集中している状況です。もちろんアライクマ等の被害が増加傾向であることも懸念しており、現在狩猟資格取得のためのフォローチャート等を作成し、組合員が自衛できる体制作りを目指して参ります。資格取得等に対する金銭的支援については、過去に各種助成措置を講じていた経過もございますが、当時は活用が少なく一旦中止している状況です。こちらに関しては状況を都度考慮し支援再開も含め協議を進めて参ります。
- Q10.** 規模拡大を考えているが、地区内だけの農地は限定されている。個別

農産部

- Q11.** J Aの将来構想(委)の中にある次世代経営体の育成で事業継承等相談体制の強化とあるが、どのような想定を考えているのか。届抜きでの継承を考えているのか。(種別支所)
- A11.** 事業継承については、親子間による経営継承、第三者による経営継承、法人化等、あらゆるパターンが想定されます。その中には後継者不在の農家経営を居抜きで新規就農者が継承するような場面も想定されます。J Aとしては組合員に最も寄り添える立場からの個別相談機能を果たすことが出来る様努力して参ります。
- Q12.** 土壌分析に10月に出したがいっ結果がくるのか。一人で作業をしていると聞いているので今後影響は出ないのか。肥料設計も早くしたい。(追分支所)
- A12.** 閑散期であれば最短2週間程で分析結果の報告が可能ではあります。作物収穫後の診断が増加する秋以降は例年2〜3か月ほど診断に時間がかかっている状況です。作業体系においては常時1名体制ですが適時営農部職員を中心に繁忙期応援体制をとっております。診断設備のキャパシティの問題ですので、大変ご迷惑をおかけしますが、ご容赦頂きたいと思っております。極力早いタイミングで結果をお知らせできる様努めて参ります。
- Q13.** コイン精米機を早来地区に設置する件は、早来でどのくらい需要があるか気になるが、採算が取れるなら設置しても良いと思う。(早来支所)
- A13.** 種別 厚真地区においては、過去からの需要により精米所やコイン精米機を設置しております。採算性など未知数の部分もあり、地区からのご意見として承りますが、早来地区から近い厚真のコイン精米機をご利用いただきますようお願いいたします。
- Q14.** 施設集約に伴い、早来での小豆乾燥調製機能は検討中とのことだが、今と同じ体制での受入は可能か?受入体制について午後5時までに持ち込むように言われるが、もっと柔軟な対応はできないか?もっと経費がかからない方法で小豆が生産できる良い方法を考えて欲しい。(早来支所)
- A14.** 現在、早来2施設のうち米麦施設を残す方向で協議しており、そこで小豆の受入もできるのか検討段階です。小豆受入れについては、受入れ後に職員により仕上げ作業があるので現在の時間帯でお願いいたします。水分調整にフレコンに刺す煙突構造の器具を活用

購買部

- Q20.** 8月にイチゴの苗を購入したが、炭疽病に感染していた。土壌に広がる病害であり今後の栽培にも懸念を抱いている。苗はJ Aからちなみから生産資材を経由して入っているが、資材でのチェック体制はどのようになっているか。また、その補償についても5円/株程度しかなく対応に疑問を感じている。(厚真支所)
- A20.** イチゴの苗については、リスク分散で2カ所から納入しております。今回の件については、生産部会として今後の取引もあることから一定の価格補償をしてもいい取引を継続することで協議を終えているところです。J Aとしても関係機関、部署と連携し適切な防除対策、情報共有を図りたいと考えております。
- Q21.** 新米の流通状況が悪いと聞か、当J Aでの在庫状況はどうなっているか。(厚真支所)
- A21.** 現在、新米に加え6年産米、備蓄米、民間輸入米などもスーパーに並んでいる状況です。また国が示した8年6月末在庫も、例年以上の在庫量と見込まれますが、系統としては取扱量を確保し卸等への安定供給、販売強化推進を図っております。そのような中、在庫についても努力して頂いております。
- Q22.** 麦大豆の調整でJ A施設の夜勤対応をしているが、上野地区施設周辺の電波状況が悪く、緊急を要する連絡に支障を来しているため改善措置を講じてほしい。(厚真支所)
- A22.** J A施設での夜勤作業について感謝いたします。環境改善を図れるよう対応したいと考えております。
- Q23.** 令和8年1月の素牛市場から市場名簿の表記が変わり、三代相までしか表示されなかったものが四代相まで表示されるようになる。11月に1月から変わるといふ案内があったが重要なことは話が出てた段階で共有して欲しい。(白老支所)
- A23.** 市場名簿の表記変更につきましては、ホクレンから農協への案内後、速やかにお知らせした経過がございます。今後につきましても迅速な情報提供に努めて参ります。
- Q24.** 手数料が上がることが要因か。また物価上昇が続けば毎年のように上がるのか。手数料が上がることについて、物価上昇などで農協が厳しい状況であることもわかるが我々農家も同じ状況。ただ反対というわけではなく、現状の体制でどのようなサービスを提供できるのか。農協の運営経費が上がっているからというだけではなく、農協が力を貸してくれる中でお互い協力していこうというところだと思っ。(白老支所)
- A24.** 手数料の見直しにつきましては、物価高騰に伴う農協運営費(人件費等)を考慮し、中長期的な視点での改定とさせて頂きました。生産者が減少し個々の経営体が大きくなる中、時代のニーズに見合ったサービスを提供できるよう努めて参ります。
- Q25.** 以前から畜産担当職員の異動については考えて欲しいと話してき

畜産部

- Q26.** 資材の配送体制を早来からするのか、対応を早く考えた方が良くと思う。(追分支所)
- A26.** 令和6年11月より、早来 追分購買課 追分資材店につきましては、拠点再編および業務内容の見直しを行い、業務効率化と収支改善に取り組みすることを目的として、季節店舗化と運営をしております。また、令和7年2月からは、追分資材店を早来 追分購買課 早来資材店の管理店舗とし、配送、在庫管理、精算等の業務は早来資材店を中心に行い、追分資材店は当用対応を基本と運営を行っております。
- Q27.** 今回は種別の整備工場の話題が上がってこなかったが、継続するという認識でよろしいか。(種別支所)
- A27.** 現在、種別整備工場の継続に向け取り組んでいますが、組合員の利用がなくては、事業の継続は難しい状況と考えております。これまで以上の整備作業のご利用をお願いするとともに、トラックター、軽トラ等の車両、各種機械の購入についてもぜひご協力お願いいたします。なお、ここ数年間の利用状況については残念ながら増加には至っておりません。今後、事業継続に向け皆様のご理解とご協力をお願い申し上げます。
- Q28.** 種別の整備工場について、春の懇談会で厚真農機と連携をとると言っていたが、実際に出来ているのか。(種別支所)
- A28.** 現在は、連携を取りながら出張作業や種別での対応が難しい場合は厚真で整備を実施しております。今後も引き続き対応をしていきます。
- Q29.** 購買事業の再編とあるが、厚真の店舗の状況と購買車も新しくなることだが今後どのように考えているのか。(種別支所)
- A29.** 令和8年8月には、新しい移動購買車「ハッピーほべつ号」での運行を予定しております。しかしながら、利用者の減少が続くようであれば事業運営は厳しい状況となるかと想定されます。そのため新規利用者を募りながら運行を継続していく考えです。今後の事業継続に向け組合員の皆さまにはご理解とご協力をお願い申し上げます。

さんさんがお
期待の農力



会社員の頃と比べて
農業にやりがいを感じている



おおつか たけひこ
大塚 毅彦さん(39歳) むかわ町穂別

実際に就農してみても

「就農当初、田んぼの水回りの難

を振り返る。

就農のきっかけ

「親父の病気がきっかけだった。年々身体の衰えや疲れが目立つようになっていくのを目の当たりにし、もともと自分が後を継ぐつもりはなかったけど、やってみようと思うようになった」と就農当時を振り返る。

昭和61年11月5日に旧穂別町(現…むかわ町穂別)で大塚徳三郎さん、睦子さんの間に生を受ける。地元で会社員として働いていたが、父から近々引退したいとの相談を受け、農業に携わることを決意する。令和5年3月27日に経営移譲した。



「就農してから今年で3年目となり、現在は水稲10ha、南瓜5ha、小麦2.4haを作付けしている。しさに驚かされた。正直、今でも分かっていない。毎年、誰かに聞いてみる」と笑って話す毅彦さん。「稲の成長段階や気候に応じて適切な水量を保つことが難しい」と水管理の苦労について話してくれた。

今後の目標

「これからは経営面積の拡大を視野に入れ、作業効率を良くしていけるように努力したい。そのために、関係機関や地域の方との情報交換を積極的に行い、気になったことがあれば実践し、将来に活かしていきたい」と意気込みを語った。

理事会報告

令和7年12月19日(金)に総合営農センターで第12回理事会が開催され、次の事項について報告、承認されました。



1. 一般報告と当面する諸行事について
2. 11月末の財務報告について
3. 組合員の異動について
4. 経営定期点検の結果について
5. 決算実地棚卸立会について
6. 令和8年度役員推薦委員の選出報告について
7. 家畜共進会・枝肉共励会の結果報告について
8. 令和8年度生乳生産目標数量の設定について
9. Aコープ歳末謝恩大売出し実施計画について



- 議案第 1 号 理事会選出役員推薦委員の選任について
 議案第 2 号 役員報酬等審議会規程の一部変更について
 議案第 3 号 令和8年度内部監査計画について
 議案第 4 号 出資の減口と譲渡について
 議案第 5 号 理事への貸付について



お悔やみ 謹んでご冥福をお祈りいたします。

月日	地区	氏名	享年
12/7	厚真町	西村 ヨシさん	90
12/10	厚真町	犬飼 仙松さん	95
12/16	安平町	杉淵 礼子さん	76
12/25	安平町	桧山 隆登さん	96
1/20	厚真町	太田 茂さん	93
1/22	安平町	西川 勲さん	89

職員異動 依願退職 12月31日付

購買部 **佐々木 誠** 平成23年8月1日入組
 追分支所資材燃料課生産資材係、資材燃料課主任、穂別支所営農販売課主任、営農農産課主任、営農農産課係長、経済部生産資材課係長、購買部生産資材課厚真資材店長、穂別資材購買課長を務め依願退職

農産部 **森 昌弘** 平成26年4月1日入組
 早来支所資材燃料課生産資材係、資材燃料課主任、農産部そ菜園芸課主任、そ菜園芸課調査役、農産課係長を務め依願退職

早来支所 **佐藤 幸絵** 令和2年2月1日入組
 共済部共済課係、金融共済部共済課係、白老支所金融共済課係、早来支所金融共済課共済係を務め依願退職

企画管理部 **穴水 麻衣** 令和6年4月1日入組
 企画管理部管理課係を務め依願退職

さんさん あぐり講座

胆振農業改良普及センター東胆振支所

小麦作付後の 緑肥栽培について

畑作物の収量・品質は、天候に大きく左右されます。近年は、夏季の高温や干ばつと多雨の繰り返しなどにより、難しい営農が続いています。当地区は砂土や砂壤土が多く分布しており、保肥性・保水性が低い状況にあるため、この気象変動の影響を強く受ける傾向にあります。保水力・保肥力を高めるために、積極的に有機物を補給しましょう。

1. 緑肥の選択

緑肥には様々な種類があるため、目的によって緑肥の種類を選びましょう

主な目的	緑肥の種類
有機物の補給	ライムギ、ソルガム、パールミレット、シロカラシ、エンバク野生種
透排水性の改善	イネ科緑肥(エンバク、ソルガムなど)、アカクローバー
空中窒素の固定	マメ科緑肥(ヘアリーベッチ、クリムソクローバーなど)
菌根菌の増殖	マメ科緑肥、エンバク野生種

2. 地力向上に向けて～例) エンバクとヘアリーベッチの混播

マメ科とイネ科を混播することで、すき込み後の炭素残存率が高く、土づくり効果が向上することが知られています。例として、エンバクとヘアリーベッチの混播について紹介します。

は種時期	7月下旬～8月下旬
は種量	ヘアリーベッチ5kg/10a+エンバク3kg/10a
施肥量	窒素：3～6kg/10a リン酸：6～8kg カリ：0～6kg/10a
は種方法	は種時に種子を混合する ブロードキャスターなどで散播する は種後にロータリー耕などで覆土し鎮圧を行う
すき込み時期	10月中旬～下旬
すき込み方法	ロータリーやプラウを利用してすき込む ※フレールモアやチョッパーなどで細断してからすき込むと分解が促進する
すき込み深	地表から深さ約15cm程度 (分解を行う微生物の活動が活発な層)



写真1
エンバクとヘアリーベッチの混播

ワンポイント営農情報

令和7年度にクリーン農業係でサポートした各種試験事業の取組概要を紹介します。詳細につきましては、ホームページ等で報告する予定です。

令和7年度試験一覧 (一部抜粋)

分類	対象作物	試験内容	資材名	判定	備考
肥料	南瓜	南瓜収穫後、緑肥の施用による土壌改良及び土壌病害抑制効果確認	緑肥	継続中	帯広畜産大学共同研究
	水稻	幼穂形成期流し込み追肥による収量増加効果確認	尿素(粒)	○	
	秋まき小麦	少量多回分肥による収量増収効果確認	硫安(粒)	○	
	秋まき小麦	硫安代替肥料の効果確認	BBM30	○	有効資材であり、今後の推進対象
	大豆	肥効調節型肥料(広域独自銘柄)による効果試験	BBS622J(Jコート)	○	有効資材であり、今後の推進対象
	大豆	腐植酸施用による生育・根域・収量への効果確認	アグロリグSC	○	酪農学園大学協力
農薬	水稻	カヤツリグサ科(ホタルイ、シズイ)の除草効果	イッセン豆つぶ、ゼアス、センメツ	○	
	大豆	土壌処理剤による雑草抑制効果確認	トップメリット	○	

シリーズNo.63 おいしい米づくり

～ 水田の環境を維持する『鉄』の役割 ～

1 微量元素『鉄』の役割
水稻栽培中、湛水・飽水状態となる水田で稲が健康に育つため、『鉄』は非常に重要な役割を果たしています。

表-1 『鉄』の水田での主な働き

鉄の効果	主な働き
光合成と呼吸の促進	鉄は葉緑素の生成を助ける役割を担っています。鉄が不足すると、葉の緑が抜け、光合成能力が低下します。また、植物の呼吸の活性化にも不可欠です。
根の保護	湛水状態の水田は、土壌の酸度が低下し、有害な硫化水素が発生しやすくなります。土壌中に十分な鉄があると、硫化水素を無害で、根の傷み・腐れを防ぎます。健全な根が淡い赤褐色に見えるのは、鉄分が表面に鏽として付着するからです。
秋落ちの防止	鉄分が極端に不足する水田では、硫化水素による根のダメージから、生育後半に急激に草勢が衰える「秋落ち」現象が起こります。適切な鉄分補給は、収穫期まで稲の活力を維持するために重要です。

2 水田土壌の『鉄』の状態
(2024～25年の分析結果より)
管内の遊離酸化鉄(土の中を自由に動き回れる鉄)含有率の平均は、0.9%でやや不足～不足に分布しています。土質別で見ると、火山灰系の砂質土は、不足～非常に不足に分布しており、疑似秋落ち現象が起きやすい条件となっています。

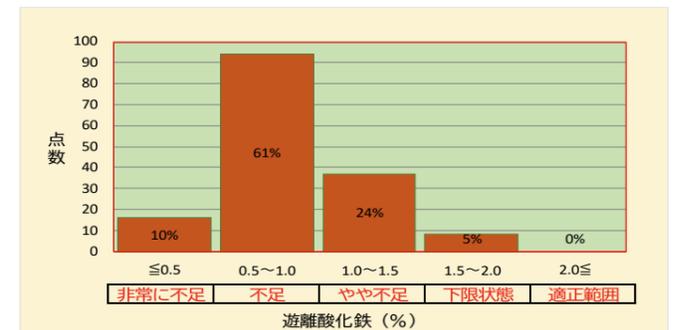


図-1 管内の『鉄』分析値の分布状態

3 『ケイ酸』と『鉄』で環境に強い稲づくりを
鉄含有率が低いほ場で『ケイ酸』と『鉄』資材の適正施用により、4～7%の増収事例(試験場試験)もあります。土壌分析センターではオプションで遊離酸化鉄の分析を行っていますので、健全な稲づくりのため、水田の健康診断に活用して見ませんか。

令和6年産 一般米共計勘定収支内訳

○入金 (消費税込み)

区分	販売先	金額	販売俵数	1俵あたり単価
一般米	ホクレン	3,806,973,980	147,883.5	25,743
	JA店舗	210,529,337	8,268.5	25,462
	商社	199,823,220	7,774.0	25,704
合計		4,217,326,537	163,926.0	25,727

○精算

区分	金額	販売俵数	1俵あたり単価
一般米	4,217,326,509	163,926.0	25,727
合計	4,217,326,509	163,926.0	25,727

共計残余金	28
-------	----

※残余金については、農産雑収益に繰り入れ。

※JA共計費用@760円/俵(税込み)については別途徴収
(JA手数料@285・保管料@254・入出庫料@93・検査料@50・保険料等@9(税別))

令和6年産 一般米精米勘定収支内訳

○入金 (消費税込み)

項目	金額	摘要
販売金額	197,115,969	うるち米8,268.5俵
雑収益(地場産米対策費)	16,392,600	
合計	213,508,569	

○支出

項目	金額	摘要
うるち原料代金	199,478,500	うるち米8,268.5俵
もち原料代金	0	
保管料	2,389,597	
精米・色選料	0	
包装資材	0	
諸経費	589,635	消費者協会・内部金利
合計	202,457,732	

残余金	11,050,837	共計勘定へ繰り入れ
-----	------------	-----------

令和6年産 大豆 共計精算報告

○共計精算数量 (単位:俵)

品種	区分	入庫数量				合計
		1等	2等	3等	特定加工用	
ユキホマレ	大粒		12,090.0	8,766.0	4,765.0	25,621.0
	中粒			2,956.0	848.5	3,804.5
	(小粒)				421.0	421.0
スズマル	小粒	8,615.5		1,575.0	285.5	10,476.0
	極小粒			945.0		945.0
	(小粒)		518.0			518.0
ユキシズカ	小粒	7,779.5	1,081.5	1,981.5	204.5	11,047.0
	極小粒			749.0	129.0	878.0
	(小粒)		363.0	55.0		418.0
合計		16,395.0	14,052.5	17,027.5	6,653.5	54,128.5

○精算単価 (単位:円/俵)(消費税込み)

品種	区分	共計精算単価			
		1等	2等	3等	特定加工用
ユキホマレ	大粒		6,834	6,594	6,354
	中粒			6,340	6,100
	(小粒)				5,465
スズマル	小粒	6,162		5,682	5,443
	極小粒			5,428	
	(小粒)		5,033		
ユキシズカ	小粒	6,857	6,618	6,378	6,138
	極小粒			6,124	5,884
	(小粒)		5,729	5,489	

○精算金額 (単位:円)(消費税込み)

品種	区分	共計精算金額				合計
		1等	2等	3等	特定加工用	
ユキホマレ	大粒		82,627,481	57,806,167	30,278,424	170,712,072
	中粒			18,742,041	5,176,137	23,918,178
	(小粒)				2,300,908	2,300,908
スズマル	小粒	53,091,627		8,949,684	1,554,074	63,595,385
	極小粒			5,129,780		5,129,780
	(小粒)		2,607,269			2,607,269
ユキシズカ	小粒	53,346,689	7,157,733	12,638,677	1,255,290	74,398,389
	極小粒			4,587,177	759,080	5,346,257
	(小粒)		2,079,750	301,914		2,381,664
合計		106,438,316	94,472,233	108,155,440	41,323,913	350,389,902

JA手数料 @322円/60kg (10%税別)については別途徴収

JA日誌

2026 2月

- 16日(月) 女性役員・参与研修(札幌) 第18回もぎたて市部会通常総会
- 17日(火) 日胆青協道外視察研修(全国青年大会) 東京方面 ~19日
- 18日(水) 地区別組合長会議(札幌)
- 19日(木)
- 20日(金) 第1回企画会議
- 21日(土)
- 22日(日)
- 23日(月) 天皇誕生日(祝)
- 24日(火)
- 25日(水) 第1回監事会、資産査定監査 第1回理事会
- 26日(木) 北農健保 組合会 第1回管理委員会 第1回生産委員会 プロックリー部会市場訪問(東-川崎、セントライ青果) ~27日
- 27日(金) たまやPB北海道米イベント ~28日
- 28日(土)

2026 3月

- 1日(日) 苫小牧市民文化ホールオープン
- 2日(月) 決算監事監査 ~6日 みのり監査 ~6日
- 3日(火)
- 4日(水) 第4回フロンティア塾 マイナビ就職EXPO(札幌)
- 5日(木) 常勤理事と監事の意見交換会
- 6日(金)
- 7日(土)
- 8日(日)
- 9日(月) 第25回広域女性部通常総会
- 10日(火) 第2回理事会 第1回本所経営指導委員会
- 11日(水) 日胆地区農対(苫小牧)
- 12日(木) ホクレン肉牛市場
- 13日(金) ホクレン乳牛市場 中央会他連合会臨時総会(札幌)
- 14日(土)
- 15日(日) むかわ町長、町議会選挙

厚真町の山口善紀さんが、安孫子賞を受賞

厚真町でハスカップ農家を営んでいる山口善紀さんが、京王プラザホテル札幌で行われた安孫子賞および北農賞贈呈式に出席しました。



JA共済ポスターコンクール

令和7年度JA共済全道小・中学生交通安全ポスターコンクールにて、安平町立早来学園6年生の真保妃希さんが銀賞、3年生の白鳥太一さんが佳作を受賞しました。



ホクレン南北海道黒毛和種市場 広域農協支所別取引成績(12月)

令和7年12月10日

	性別	成立頭数(頭)	価格平均(円)	平均日齢/体重(kg)	平均kg/単価(円)
白老	去勢	24	760,750	1.151	2,275
	雌	14	690,571	1.069	2,088
早来	去勢	26	755,654	1.191	2,155
	雌	24	669,708	1.042	2,063
厚真	去勢	21	741,619	1.171	2,160
	雌	19	649,263	1.016	2,068
穂別	去勢	20	770,450	1.191	2,229
	雌	34	669,824	1.067	2,139
追分	去勢	4	783,250	1.147	2,350
	雌	4	683,500	1.029	2,051
とまごまい広	去勢	95	758,116	1.175	2,209
	雌	95	669,316	1.049	2,094
胆振管内	去勢	192	770,214	1.170	2,239
	雌	156	668,038	1.043	2,084
市場計	去勢	892	734,881	1.156	2,184
	雌	713	651,450	1.036	2,070